

PFOS、PFOA 以外の PFAS の国内の検出状況

公共用水域等における PFOS 及び PFOA 以外の PFAS (PFHxS 等) の存在状況については、環境省において各種調査を行っている。各種調査の概要を表 1、公共用水域等における検出状況について表 2～表 5 に示す。

表 1 公共用水域等における PFHxS 等の存在状況に関する調査の概要

調査名	概要
有機フッ素化合物全国存在状況調査	実施年度 令和 2 年度 対象物質 PFHxS 調査目的 有機フッ素化合物の排出源となり得る施設周辺における存在状況の把握 測定地点 有機フッ素化合物の排出源となり得る施設の周辺
要調査項目等存在状況調査	実施年度 令和 3 年度～令和 5 年度 対象物質 PFHxS 調査目的 要監視項目等への位置づけの見直しに向けた基礎情報収集 測定地点 過去データにおける濃度の高い地点等
化学物質環境実態調査 (H22詳細調査) (H30～R4モニタリング調査)	実施年度 平成22年度 平成30年度～令和 4 年度 対象物質 PFDoA、PFTeDA、PFHxDA (平成22年度) PFHxS (平成30年度～令和 4 年度) 調査目的 化審法の特定化学物質等について一般環境中の残留状況を監視すること及びPOPs条約に対応するため条約対象物質等の一般環境中における残留状況の経年変化の把握 測定地点 特定の排出源の影響を直接受けにくいような地点であり、調査水域での代表的と考えられる地点

注 1 : PFOS 及び PFOA は平成 25 年度に要調査項目、令和 2 年度に要監視項目となった。

注 2 : PFOS は平成 22 年度に、PFOA は令和 3 年度に化審法の第一種特定化学物質となった。

表 2 公共用水域等における PFHxS の検出状況  
(令和 2 年度有機フッ素化合物全国存在状況調査)

年度	測定地点数	検出地点数	濃度範囲 (ng/L)
2020 (R2)	47	36	<0.1~28

注：定量下限値（報告下限値） PFHxS 0.1ng/L

出典：環境省 有機フッ素化合物全国存在状況調査([https://www.env.go.jp/water/pfospfoa/post\\_123.html](https://www.env.go.jp/water/pfospfoa/post_123.html))

表 3 公共用水域等における PFHxS の検出状況  
(要調査項目等存在状況調査)

年度	測定地点数	検出地点数	濃度範囲 (ng/L)
2021 (R3)	47	32	<0.1~4.7
2022 (R4)	47	35	<0.1~2100
2023 (R5)	86	60	<0.1~680

注 1：定量下限値（報告下限値） PFHxS 0.1ng/L

注 2：検出地点数及び濃度範囲については出典に基づき本資料で独自に集計。

出典：環境省 要調査項目等 存在状況調査結果 (<http://www.env.go.jp/water/chosa/index.html>)

表 4 公共用水域等における PFHxS の検出状況  
(化学物質環境実態調査)

年度	測定地点数	検出地点数	濃度範囲 (ng/L)
2018 (H30)	47	44	<0.12~2.6
2019 (R1)	48	45	<0.06~1.8
2020 (R2)	46	44	<0.06~1.5
2021 (R3)	47	44	<0.07~2.3
2022 (R4)	48	42	<0.07~1.8

注 1：定量下限値 PFHxS 0.06~0.12ng/L 検出下限値（報告下限値） PFHxS 0.02~0.05ng/L

注 2：検出地点数及び濃度範囲については出典に基づき本資料で独自に集計。

出典：環境省 化学物質と環境 (<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/>)

表5 公共用水域等における長鎖PFCAの検出状況  
(化学物質環境実態調査)

年度	物質名	炭素数	測定地点数	検出地点数	検出範囲 (ng/L)
2010(H22)	PFDoA	12	27	3	nd~0.3
2010(H22)	PFTeDA	14	27	0	nd
2010(H22)	PFHxDA	16	27	0	nd

注1：検出下限値（報告下限値） PFDoA 0.014~0.1ng/L PFTeDA 0.021~0.1ng/L PFHxDA 0.014~0.061ng/L

注2：検出地点数及び濃度範囲については出典に基づき本資料で独自に集計。

出典：環境省 化学物質と環境 (<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/>)